

在宅ケアの最前線と最後の砦を担う ホームヘルパーの専門性の発揮に向けて

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国ホームヘルパー協議会
会長 田尻 亨

コロナ禍においても、在宅ケアの最前線と最後の砦を担うホームヘルパーは、自身の感染や利用者間の感染を媒介してしまうことへの不安を抱えつつも、感染対策を徹底し、利用者の重度化防止、自立支援に向けてサービスを継続しています。

利用者が住み慣れた地域や自宅で暮らし続けられるよう、ホームヘルパーが支援を行い、その専門性を十分に発揮し、やりがいを持って働き続けることができるよう、今後の制度改正にあたっては、以下の事項についてご配慮くださいますようお願いいたします。

1. 人材確保の取り組みに対する支援と訪問介護の魅力発信

ホームヘルパーの有効求人倍率は、14.92 倍^(令和 2 年度時点)であり、人材確保は非常に深刻な状況で、担い手の高齢化も進んでいます。1 事業所での人材確保の取り組みには限界があるため、国による全国的な取り組みと「地域医療介護総合確保基金」の更なる拡充をお願いします。

また、人材不足の原因の 1 つに、訪問介護をはじめとする介護の仕事のネガティブなイメージが定着していることが挙げられます。訪問介護をはじめとする介護の仕事のイメージアップに向けた取り組みと魅力発信をお願いします。

2. 訪問介護の事業継続を可能とする基本報酬の引き上げ

深刻な人材不足が続く中で、現行の訪問介護の報酬単価では正規常勤職員の雇用が困難です。また、中山間地域や過疎地域、離島、豪雪地域等においては、移動時間や人材確保等の面からも事業継続が困難な状況にあります。訪問介護の事業継続に向けて基本報酬の抜本的な引き上げをお願いします。

3. ホームヘルパーの専門性に対する評価

ホームヘルパーは、自立支援の視点を持って日々の利用者の生活を観察し、利用者の状況に応じて、他職種との情報共有・連携を行いながら支援内容を調整する専門職として、在宅ケアの最前線と最後の砦を担っています。ホームヘルパーによる看取り期のケアや認知症ケアに対する評価、サービス提供責任者の業務に対する適切な評価をお願いします。